2025 年 3 月

社会技術研究開発事業
科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）への包括的実践研究開発プログラム
プロジェクト企画調査 事後評価報告書

「科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）への包括的実践研究開発プログラム」
プログラム総括　　唐沢　かおり

１．課題代表者

福士 珠美（東京通信大学 人間福祉学部　教授）

２．課題名

ニューロテクノロジーの人間中心型国際ガバナンス構築に向けた企画調査

３．実施期間

2024（令和 6）年 10 月 1 日 ～ 2025（令和 7）年 3 月 31 日

４．事後評価結果

<u>プロジェクト企画調査の目標達成状況</u>（公開）

本企画調査は、BMI 技術等の急速な発展により現実的な問題になりつつある先端的領域を対象に、国際的なガイドライン策定などのガバナンス構築を目標として実施されたものである。

当プログラムの目標という観点から、哲学・倫理学の専門家を体制に組み込むなど、研究開発プロジェクト（以下、「プロジェクト」という）を充実させるための体制強化を行うこと、「脳」と「意志」と「行動」の関係性の再考に関して、「脳」の倫理に関する考察に偏らず、「意志」と「行動」を含めた人間としての倫理に着目した議論を進めること、対象とする技術の特性を明確に定義したうえで成果創出に向けた検討を行うことを期待した。

企画調査の結果、国内外の研究動向に関する文献調査、技術的および倫理的課題の整理、および国内外の研究者との意見交換を通じた研究基盤整備が十分に進められた。特に先行研究の調査については短期間で精力的に実施されており、プロジェクト展開への準備として十分な水準に達していると言える。

プロジェクト提案の際は、ニューロテクノロジーと AI との関係性・位置づけ、ELSI 研究に文化的課題を含めた意義、リテラシー向上をこのプロジェクト内で実施する必然性と位置づけなど、本プロジェクトの射程とする範囲とその理由について、より整理した上での提案に期待したい。

なお、「生命や人・社会の根源的価値に関わる共通課題」(根源的問い)については、より入念な検討が必要と思われる。国際的なルールとの協調や文化的課題を含めた意義に関する議論も踏まえて、問いの深化をはかっていただきたい。

2025 年 3 月

（別紙）評価者一覧

〈プログラム総括〉

唐沢 かおり　東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

〈プログラムアドバイザー〉

大屋 雄裕　慶應義塾大学 法学部 教授

四ノ宮 成祥　国立感染症研究所 客員研究員

中川 裕志　理化学研究所 革新知能統合研究センター
社会における人工知能研究グループ チームリーダー

西川 信太郎　株式会社グローカリンク 取締役
／日本たばこ産業株式会社 D-LAB シニアディレクター

納富 信留　東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

野口 和彦　横浜国立大学 総合学術高等研究院 リスク共生社会創造センター 客員教授

原山 優子　東北大学 名誉教授

水野 祐　シティライツ法律事務所 弁護士

山口 富子　国際基督教大学 教養学部 教授

（2025 年 3 月末時点）